

■ ますの話題

東京オリンピックに向けて - 円谷幸吉・レガシーサルビアの会 -



1964年当時のパレードなどを振り返りました

1月28日、市民交流センター tette で新春シンポジウムが行われ、関係者など約40人が参加しました。

博物館の安藤清美館長の基調講演やパネルディスカッションが行われ、今年夏、半世紀ぶりに復活を目指す「サルビアの道」と円谷幸吉選手に理解を深めました。

雛人形きれいだね ―大東こども園雛人形展見学―

2月8日、大東こども園の園児が、博物館の雛人形展を見学しました。園児たちは、江戸時代から現代に至るまでの雛祭りや雛人形の「今と昔」について学び、家族の思いを受け継いできたお雛様に興味津々の様子で、「あの人形は何？」などと見入っていました。



真剣な表情で見つめていました

須賀川の魅力を体感 ―モニターツアーを開催―

2月9日、10日の両日、体験型交流推進事業として、首都圏の居住者などを対象としたモニターツアーを行い、18人が参加しました。

藤沼湖自然公園でイカにんじん作りやそば打ちを体験し、市民交流センター tette や「すかがわの路地 de マーケット (Rojima)」を見学しました。参加者たちは、須賀川ならではの体験を楽しんでいました。



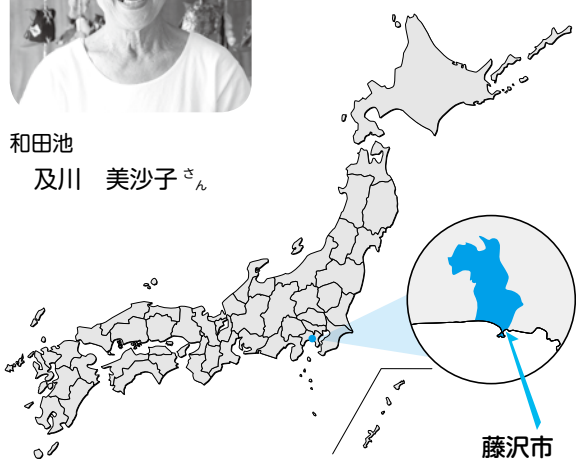
昔ながらのいりりで食事も

私のふるさと



和田池
及川 美沙子さん

神奈川県藤沢市



私のふるさは、神奈川県藤沢市鶴沼です。藤沢市は、東京から約50km、神奈川県の中央南部に位置し、横浜市・鎌倉市・茅ヶ崎市・大和市・綾瀬市・海老名市と寒川町に囲まれ、南は相模湾に面し、おおむね平坦な地形をしています。

JR東海道線で東京まで約50分、横浜まで約20分の位置にあります。江の島を中心とした海岸風景は、現代の「湘南」の代表的なイメージです。

湘南のイメージと言えば、横浜生まれ茅ヶ崎育ちの加山雄三さんです。

また、サザンオールスターズの桑田佳祐さんは、茅ヶ崎市の出身であり、現在は茅ヶ崎海水浴場もサザンビーチと呼ばれています。

見所は数多く、お正月の箱根駅伝から始まり、夏は江の島や鎌倉の花火大会、秋は、鎌倉八幡のお祭りや目白押しです。ぜひ遊びに行ってください。

主人の転勤で、この須賀川の地に来て10年近くになりますが、春の釈迦堂川の桜や夏の花火大会、秋の松明あかしなどの行事を楽しみ、地域の皆さんとの交流で楽しい生活をしています。



サクラの開花時期が気になる季節です。エドヒガンは長命で巨樹に育ちやすい種でもあるため、天然記念物に指定されている個体が多くあります。市内では長沼にある2本のサクラが県指定の天然記念物となっています。

「古館のサクラ」は白に近い

ふるさとの遺産⁽²⁹⁵⁾
県指定天然記念物
古館のサクラ(梓衝)
護真寺のサクラ(横田)



古館のサクラ

「護真寺のサクラ」も、樹高15メートル、根回り5・8メートル、根回り5・8メートルです。文化財の背景にある先人の経験や知恵は、生きる力や感動を与えてくれます。過去の人々からそれを受けとった私たちは、文化財を消費するだけでなく、さらに価値を増して未来へ伝えることができるはずです。

博物館 ☎ (75) 3239

ピンクの花を咲かせるエドヒガンのシダレザクラです。二階堂氏が築いたとされる館跡に隣接し、樹高は17メートル、根回り(樹木の株元)5・9メートル、目通り(胸の高さで図った幹周りの長さ)4・4メートルです。ピンクの花を咲かせるエドヒガンのシダレザクラで、赤みがかったピンクの花を咲かせます。どちらも樹齢は約450年といわれ、開花が農産物の種まきを始める時期の目安とされてきました。人々と樹木が互いを見守りながら重ねてきた年月が思われます。

歌ってみっ会

代表者 磯部 信子
会 員 25人
発足年月 平成28年4月
連絡先 ☎ (76) 4319
活動日 毎月第3水曜日 午前10時～
活動場所 仁井田公民館

私達のサークルは、仁井田公民館主催の「歌声広場」がきっかけで、みんなで歌う楽しさを知り、歌が好きな人達が集まって結成しました。□コミで会員が増え、現在25人で活動しています。

歌う曲は主に懐かしい歌、思い出の歌を中心に、その時の季節の歌やフォークソングなどから選曲し、さらにみんなで楽しめるように会員からリクエストを募って歌っています。

仁井田公民館主催の「芸能発表会」に参加することを目標とし、毎回和やかに練習しています。

最初はラジオ体操から入り、体をほぐしてから発声練習などで口の運動をしています。続けて須賀川市歌を歌い、季節の歌、リクエスト曲と進めます。最後は、「今日の日はさようなら」で締めくくります。

それでは皆さん一緒に「歌ってみっ会！」

一人でも悩まず相談してみませんか？
次の相談機関がありますので、一人で悩まず相談をしてください。
健康づくり課 ☎ (88) 8123
県中保健福祉事務所 ☎ (75) 7811
福島いのちの電話 ☎ 024(536)4343
東京自殺防止センター ☎ 03(5286)9090



▼「消えてしまいたい」などと言う
家族や仲間の変化に気付いたら「眠れてる？」など、自分にできる声掛けをしていきましょう。
〈傾聴〉
悩みを話してくれたら、本人の気持ちを尊重し、時間を掛けて耳を傾けます。共感して、相手を大切に思う気持ちを伝えましょう。
〈つながぎ〉
心の病気や社会・経済的な問題などを抱えている場合は、早めに専門家に相談するように促し、相談機関や医療機関などにつなげましょう。

仲間ができる
自殺予防のための行動
〈気づき〉
▼口数が減り元気がない
▼孤立している



3月は、「自殺対策強化月間」です。
日本の年間自殺者数は、2万1321人(平成29年地域における自殺の基礎資料)と深刻な状況が続いています。
年齢別では、40代が最も多く、続いて50代となっています。
大切な命を守るために、周囲の人ができる行動があります。

